

令和 5 年度 岡本北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし，心身ともに健康で，創造性と実践力に富み，「知」「徳」「体」のバランスのとれた力を育成するとともに，社会の変化に向き合い，生き抜いていくために求められる力を養う。

【具体目標】（目指す子どもの姿）

・学び合う子	・助け合う子	・鍛え合う子
--------	--------	--------

【子どものスローガン】	「つよく やさしく かしこい子」
-------------	------------------

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり，創意と活力にあふれ，児童の主体性を活かした教育活動を展開するとともに，「安心・安全に生活することのできる楽しい学校」「自分の力を発揮し互いに高め合える学校」「きまりを守りお互いを尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼され地域とともにある学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 心豊かでたくましく生きる児童を育成する教育活動を積極的に推進するとともに，一人一人が安心して生き生きと活動できる学校づくりに努める。
- (2) 「宇都宮モデル」を活用した授業改善や個に応じた指導，ICTの有効活用等により，基礎・基本の定着と主体的・対話的な学びを実践できる確かな学力の向上を目指す。
- (3) 自ら健康や体力づくりに励むとともに，自他の生命を尊重し，児童一人一人が，健康で安全な学校生活を送るための判断力と行動力を育成する。
- (4) 教職員としての使命と責務を自覚し，専門職として日々研鑽を積み，指導力及び資質の向上を図る。
- (5) 校務の明確化・重点化・効率化を推進し，やりがいとチームとしての協働意識をもって勤務できる学校づくりに努める。
- (6) 学校，地域，家庭との連携，学校園における小中の連携を推進するとともに，地域の教育資源や教育力を活用し，開かれた学校づくりを推進する。

【古里地域学校園教育ビジョン】

夢や希望をもち，その実現に向けて，よく考え，思いやる心を磨きながら，生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 本校の教育課程は，日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び同施行規則等の諸法律，小学校学習指導要領，栃木県教育委員会の指導方針，宇都宮市教育委員会の指導方針，第2次宇都宮市学校教育スタンダード，学校教育指導の重点・努力点を踏まえた教育課程を編成する。
- (2) 「1 学校教育目標」及び「3 学校経営の方針」「5 今年度の重点目標」に則り，地域や学校，児童の実態及び児童の心身の発達と特性を十分考慮して，知・徳・体の調和のとれた，心豊かでたくましい児童の育成が図れるように「7 特色ある学校づくり等に関する取組」を組み込み充実した教育課程を編成する。
- (3) 学校行事や諸教育活動のより一層の精選を図るとともに，教育活動が創意と工夫に満ちたものになるよう教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営
○児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、主体的に困難に立ち向かうたくましい児童の育成
・本校のイメージキャラクター「きらりん」を活用した主体的な取組の充実
・校務内容の改善と遂行の効率化と勤務時間を意識した働き方の推進
(2) 学習指導
・「宇都宮モデル」を踏まえた授業改善の推進と創意工夫した家庭学習の習慣化
・言語活動の一層の充実により対話的な活動へと発展させる協働的な態度の育成
○1人1台端末、ICTを活用した授業展開の工夫や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習活動の充実
(3) 児童生徒指導
・基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成、思いやりの心の育成
○いじめ・不登校等の未然防止、早期発見及び適切な初期対応等による支援の充実
・一人一人の存在感を認め合える学級づくりの充実
(4) 健康（保健安全・食育）・体力
・年間を通しての多様な体力向上推進計画の実践
○自他の命の大切さを考え、危険を予測し、正しく判断して行動する児童の育成
・望ましい食習慣の定着と健康を管理する能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 教職員→ 90%以上	① 児童の興味関心を高める学習課題の設定やICT機器の日常的な活用を図り、「分かる」「できる」授業の展開に努める。 ② 効果的なグループ活動や話し合う場面を意図的に設定し、自分の考えを発表したり、友達の意見に耳を傾けたりすることで、互いの良さを認め、協働して課題解決を目指す機会を確保する。 ③ 宇都宮モデルを踏まえた「はっきり！じっくり！すっきり！」の授業の流れを意識した授業を構成し、特に振り返りの時間を確保することで、深い学びの実現に努める。		【達成状況】 【次年度の方針】

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において学校のキャラクター「きらりん」を有効に活用し、児童の自主性を尊重しながら、互いに協力して活動する場を意図的に設ける。 ② 日頃から児童の善い行いや頑張り、を率先して称賛するとともに、教職員間で情報を共有する。また、各種たより等を通して児童のよさを発信するとともに、「ふわふわ言葉」を各学級で作成・掲示し適宜指導することで、自己肯定感を高めたり、意識の高揚を図ったりする。 ③ 道徳科や総合的な学習の時間等の授業を充実させるとともに、人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育の充実を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 授業や当番活動・委員会活動等において、児童同士が目標に向かって協働する姿を積極的に認め励ます指導を通して、児童の自己肯定感を高める。 ② 道徳科の内容項目「自主、自立、自由と責任」「向上心、個性の尊重」「希望と勇気、努力と強い意志」等において、目標に向かって粘り強く取り組むことのよさに気付かせるとともに、実践意欲を高める。 ③ 児童が目標達成に向け意欲的に取り組む姿を、各種たよりやホームページ等で保護者や地域等に発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上 教職員→ 90%以上	① 早寝早起き・朝ごはんの摂取について、家庭と連携を図りながら継続して周知し指導を行う。 ② 規則正しい生活を送るために、スマホ、ゲーム等の利用時のルールや睡眠時間の確保等について家庭とも連携を図りながら、日常的に指導を行う。 ③ 日常における安全指導を充実させるとともに、避難訓練等を計画的に実施し、危険を予測し、自らの生命を守る判断力や態度を育てる。	【達成状況】 【次年度の方針】
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 80%以上	① 授業や当番活動・委員会活動等において、児童同士が目標に向かって協働する姿を積極的に認め励ます指導を通して、児童の自己肯定感を高める。【A3①再掲】 ② 効果的なグループ活動や話し合う場面を意図的に設定し、自分の考えを発表したり、友達の意見に耳を傾けたりすることで、互いのよさを認め、協働して課題解決を目指す機会を確保する。【A1②再掲】 ③ 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分のよさを自覚し、夢や目標の実現を目指して努力しようとする意欲や、望ましい職業観を、キャリアパスポートを効果的に活用しながら、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。	【達成状況】 【次年度の方針】

2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、外国 語活動(英語)の授業やALTと の交流の際に、英語を使って コミュニケーションしている。」 における肯定的回答 児童→ 80%以上 教職員→ 80%以上	① 外国語科及び外国語活動の授業 において、必然性のある言語活動を 設定することで、自分の気持ちや考 えを表現し合うことができるよう にする。 ② ALTと連携し、学年の実態に応 じた外国語科及び外国語活動に取 り組むことで、英語に親しみ、英語 を使って積極的にコミュニケーシ ョンをとろうとする態度を養う。 ③ 教材教具の工夫・資料の充実を図 り、英語に関わる環境を整備する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都 宮の良さを知っている。」にお ける肯定的回答 児童→ 80%以上	① 宇都宮学との関連を図り、社会科 における市内・地域に関連した学習 や、生活科、総合的な学習の時間 における郷土の学習等の充実に努め る。 ② 教職員が研修等に積極的に参加 し、宇都宮市の歴史や文化、伝統産 業等についての理解を深めるとと もに、校内にフィードバックするこ とで、互いの指導力向上を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、パソ コンや図書等を学習に活用し ている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① デジタル機器や図書資料を活用 した授業を意図的・計画的に行い、 児童の情報収集の能力や活用する 力を育む。 ② 各教科等年間指導計画に関連し た図書資料の整備・充実に努める。 ③ 読書マラソンカードの効果的な 活用や朝読書の継続、毎月のボラ ンティアによる読み聞かせ等を通じ て、児童の読書活動の更なる充実を 図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
2ー(3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、「持続 可能な社会」について、関心 をもっている。」における肯定 的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 生活科や総合的な学習の時間 において、SDGsに関連した授業を 行うとともに、職員研修等で理解を 深め、教材や教具の共有を図る。 ② 東日本大震災等の災害について の学習や、避難訓練を定期的に実施 することで防災への意識を高める。 また、エネルギーや環境問題等につ いて、自分事として捉えさせ、給食 時の牛乳パックリサイクル等に前 向きに取り組ませる。 ③ 人権教育年間指導計画に基づき、 全教育活動を通して人権教育を計 画的に実施する。【A2③再掲】	【達成状況】 【次年度の方針】
3ー(1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、 特別な支援を必要とする児童 (生徒)の実態に応じて、適 切な支援をしている。」にお ける肯定的回答 教職員→ 85%以上	① 特別な支援を必要とする児童に ついて、特別支援教育コーディネ ーターや児童指導主任を中心として、 特別支援委員会やケース会議等 において対応を協議し、組織的な指 導に努める。また、早期の対応がで きるよう、日頃から職員間で情報交 換を密にするとともに、適宜「ミニ ケース会議」の開催も検討する。 ② 特別支援学級の児童や通級児童 等について、個別の支援計画を作成 し、合理的な配慮を伴う指導に努め る。 ③ 全児童に対して全教職員が共感 的理解に基づく指導に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上	① いじめは絶対に許されない行為であることを、朝の会や帰りの会、道徳科の授業、学級活動等あらゆる場面を通して継続的に指導し、人権に配慮した学級づくりを心掛ける。 ② いじめに関するアンケート調査、「なんでも相談」、いじめゼロ集会、いじめゼロリボンの配付、ケース会議等の計画的な取組を通して、いじめの未然防止・早期発見に努める。また緊急時には、いじめ対策委員会の開催等、組織的に対応する。 ③ 全教職員が自らの人権感覚の醸成に努めるとともに、いじめを認知した場合には、組織的に対応する。また、各種たよりや懇談会等で、学校での取組について保護者に丁寧に説明し、理解と協力を求めている。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童(生徒)がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上	① 日頃から児童が互いを認め合える学年・学級づくりに努めるとともに、認め励ます指導を意図的に実施することで、児童の自己肯定感を高める。 ② 「なんでも相談」、アンケート、Q U 調査等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見に努める。また、連続での欠席等、配慮の必要な児童については、電話等により家庭との連携を図ることで未然防止に努めるとともに、速やかに全教職員で情報を共有する等、校内の支援体制を強化する。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」における肯定的回答 児童→ 90%以上 保護者→ 90%以上	① 学校行事や児童会活動、北小タイム、集会活動等を工夫し、児童が主体的に活動する場を設定することで、児童の自己肯定感を高め、居がいを感じながら学校生活を楽しく送れるようにする。 ② 児童一人一人の特性やよさを的確に把握するとともに、児童の話に耳を傾けたり、前向きな声かけを通して、認め、励ます指導に努める。 ③ 活動を盛り上げる雰囲気づくりに心掛けるとともに、自他の違いやよさを認め合う場面や振り返りの場を意図的に設定していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 85%以上	① ねらいを明確にした、わかりやすくきめ細かな授業を実践するとともに、振り返りの時間を確保することで基礎・基本の確実な定着を図る。 ② 個の特性や能力に応じた支援を工夫するとともに、T・T、少人数指導、習熟度別学習等により、効果的な指導を行う。 ③ I C T 等教育機器の効果的な活用、対話を生む学習形態の工夫や、児童が考える場面と教師が教える場面の組み立て等に配慮した授業展開を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 教職員→ 80%以上	① 「チーム岡北」の合言葉のもと、学校行事の準備、運営や諸問題への対応を互助的、組織的に行う。 ② 教職員の特性や得意分野が生きる組織運営に努めるとともに、互いの悩みや困り感を気軽に相談し合える職員室の雰囲気づくりに努める。 ③ 職員相互の業務内容を理解し、コミュニケーションを図りながら協力し合える体制づくりに努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 教職員→ 80%以上	① 教職員一人一人が働き方改革の視点に立ち、業務の効率化を図るとともに、月1回の定時退勤の実践など、適正な勤務時間の意識化に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、校務分掌の改善や学校行事等の実施方法の改善、業務の削減を検討し、実行に努める。 ③ グループウェアや学習情報システム等の有効活用、共有フォルダ内の情報整理・共有に努め、業務の効率化を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、地域学校園の小学生や中学生、(小学生や)先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」における肯定的回答 児童→ 80%以上 保護者→ 80%以上	① 各校種や小中合同での「あいさつ運動」を中心に、学校園の各部会で企画した小中連携の取組を実践し、古里地域学校園教育ビジョンの実現に努める。 ② 学校園の学力向上部会、ICT教育推進部会、生活支援部会、交流連携部会の活動を通して、三校の相互支援体制を充実させる。 ③ 活動の様子を、各種たよりやホームページで発信していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」における肯定的回答 保護者→ 85%以上 地域住民→ 85%以上	① PTA、地域協議会、自治会、民児協等と連携し、さらなる教育活動の充実や登下校の安全確保、児童の健全育成に努める。 ② 地域にある事業所や専門性をもつ人材等の協力・参画を得た授業を計画・実施することで、地域の教育力を生かした教育活動を推進するとともに、取り組みの様子を各種たよりやホームページで発信する。 ③ 地域コーディネーターと連携を図り、学習支援ボランティアを効果的に活用することで、より充実した人材・施設の活用を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答 保護者→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施するとともに、危険箇所等が発見された場合は、迅速な改善や修繕に努める。 ② 清掃の手順を明確に示したり、身の回りの整理整頓に関する指導を日常的に行ったりすることで児童の環境美化への意識を高めるとともに、教職員も環境美化に努める。 ③ 避難訓練や引き渡し訓練等の計画的な実施や危機管理マニュアル等の整備により、災害や不審者侵入等の不測の事態に備えるとともに、熱中症や感染症の防止対策等を万全に行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① ICT機器や学習用ソフト・図書資料等の整備に努めるとともに、それらの有効活用に向け、適宜研修を行う。 ② 各教科等において、学習主導主任や情報教育主任を中心にICT機器等の活用場面を意図的に設定し、活用を図る。 ③ グループウェアや学習情報システム等の有効活用、共有フォルダ内の情報整理・共有に努め、業務の効率化を図る。【A16③再掲】	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 85%以上	① 古里地域学校園や地域協議会と連携した児童会による朝のあいさつ運動、毎週水曜日のあいさつボランティアによるあいさつ運動を継続して行うとともに、状況に応じた会釈の指導など、多様なあいさつの意識化・実践化を図る。 ② 学級懇談会や各種たより等を通して、あいさつの意義や児童の様子を家庭に積極的に伝えとともに、「あいさつふり返しカード」を活用して学校・家庭・地域が一体となった指導を継続する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 教職員→ 85%以上	① 「学習の約束」「生活の約束」を各教室に日常的に掲示し、指導するとともに、児童が話し合って、自ら学級のきまりやマナーをつくるといった、主体的な取組をより一層推進する。 ② 月末の「ふりかえりタイム」において、きまりやマナーについての児童の自己評価や生活目標の達成状況等について、校内掲示板等を活用し全教職員で共通理解を図るとともに、継続的に指導を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B3 児童は、コミュニケーション能力を発揮し、互いに協力して活動している。 【数値目標】 独自アンケート「児童は、学校行事やたて割り班活動において、コミュニケーション能力を発揮している。」における肯定的回答 児童→ 90%以上	① 学級において、日頃から互いに助け合い協力し合うことの大切さを指導するとともに、道徳科の授業において協力・協調の態度を育む指導を充実させる。 ② 学級の係活動や児童会活動、縦割り班活動、学校行事等において、話し合い、コミュニケーションを図れる場、協力して活動する場を意図的に設ける。	

	B 4 児童は、家庭学習を続ける習慣が身に付いている。 【数値目標】 独自アンケート「私は、家庭学習をする習慣が身に付いている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上 保護者→ 80%以上	① 古里地域学校園で作成した「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の内容や分量、方法を低・中・高学年ごとに具体的に示すとともに、取組について称賛したり励ましたりして習慣化を図る。 ② 家庭学習の意義や学校での指導内容について、学級懇談会や学年だより等で保護者に周知し、理解や協力を得られるよう努める。	
	B 5 自分の学校のよさを知り、自校への愛情や誇りを持っている。 【数値目標】 独自アンケート「私は、学校の良いところや自慢できることを知っている。」における肯定的回答 児童→ 85%以上	① 学校教育活動全般においてマスコットキャラクター「きらりん」の効果的な活用を図り、共に生きる力を育てる活動の充実を図る。 ・縦割り班活動・各種行事・地域清掃活動等(きらりんウォークラリー、きらりん運動会、きらりん感謝祭、きらりん表彰、きらりん清掃(岡本城跡)等) ② 自他を理解し、尊重し合い、支え合う望ましい学級づくりを目指す活動の充実を図る。 ③ 地域の教育力、地域資源を活用し、連携を図った教育活動を推進する。 ・地域の団体・施設、地域協議会と連携した教育活動 ・各種訓練や下校時の見守り	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。